

国際シンポジウム「OHOW2024」で講演

第1回の「OHOW2022」から連続して口頭発表

2024年12月10日～12日にマレーシア・プトラジャヤ市で開催された国際シンポジウム「OHOW2024（The 3rd International Symposium on One Health, One World）」（主催：マレーシアプトラ大学ほか）で、当社社員が講演を行いました。

同シンポジウムでは、気候変動と緑の復興、アジア地域における公衆衛生、インフラマネジメントと持続可能な建設環境、都市の安全と減災といったトピックスを中心に、学術・産業各方面から多くの発表を行い、参加者らは議論を深めました。

当社社員による講演内容は以下の通りです。

<p>EFFECTIVE USE OF TUNNEL FACE OBSERVATION RECORDS DURING TUNNEL CONSTRUCTION FOR RENEWAL OF ABANDONED TUNNEL （邦題：トンネル施工データを用いた三次元地盤モデルの作成～Ⅱ期線トンネル設計への活用～）</p> <p>白井 杏実</p>	<p>本発表では、供用中のトンネル（Ⅰ期線）施工時の切羽観察記録を用いて三次元地盤モデルを作成し、隣接した廃線トンネルをⅡ期線として利活用する改築設計に用いた事例について述べた。三次元地盤モデルの活用手順は、①現在供用されているⅠ期線の施工前の地質縦断図を、施工時の切羽観察記録をもとに修正した。②修正したⅠ期線地質縦断図と、施工時の切羽写真を三次元的に配置し、地層境界を設定して三次元地盤モデルを作成した。③作成した三次元地盤モデルを用いてⅡ期線位置の地質縦断図を作成した。これにより、追加調査を行うことなく、隣接した廃線トンネルをⅡ期線として利活用するための改築設計、支保パターンの検討を行うことができた。</p> <p>廃棄トンネルをこのように再利用することは、新規のトンネル建設に比してCO₂削減や建設材料の消費削減など環境面から推奨すべき取り組みである。また、従来工事後は利用されることがなかった施工時の記録を利用して、大規模な追加調査なしに改築設計を行うことも、環境問題に寄与できたと考えられる。</p>
---	---

以上



<本資料に関するお問い合わせ>